

「九州地域の活断層の長期評価」(第一版)のポイント

地震調査研究推進本部 事務局

1. 活断層の長期評価

地震調査研究推進本部の下に設置されている地震調査委員会は、防災対策の基礎となる情報を提供するため、地震の規模、発生間隔等の長期予測(長期評価)を実施しています。

これまで、陸域の主要な110の活断層帯(M7以上の地震を想定)を対象として個別に評価を行ってきましたが、M7未満の地震でも被害が生じること、地域によって活断層の特性に共通性があること等から、評価対象を広げ、地域単位で活断層を評価する「地域評価」を行うこととしています。

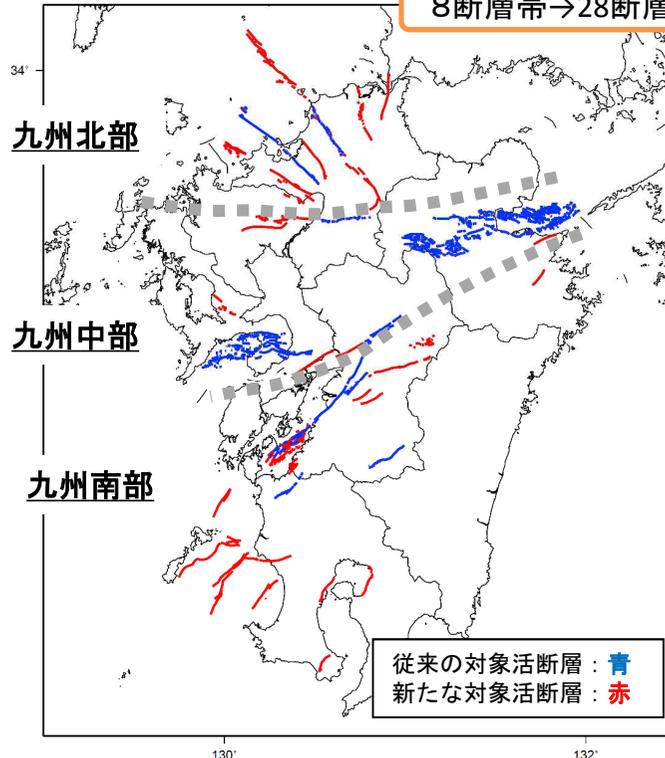
その第1弾として、九州地域を対象として地域評価を実施しました。

2. これまでの評価との主な違い

		従来	新たな評価
対象活断層	規模	M7以上	M6.8以上
	陸海	陸域	陸域・沿岸海域
	潜在	地表に現れている部分のみ	地下の延長部も推定して評価
評価方法		個別に活断層を評価	地域単位で活断層を評価

3. 評価対象とした活断層

8断層帯→28断層帯



4. 活断層で発生する地震の規模・確率

地域	活断層帯	区域内の最大の地震の規模 (マグニチュード)	地域の長期評価 (M6.8以上の地震が30年以内に発生する確率)	
			各区域の確率値	九州全体の確率値
九州北部	小倉東断層、福知山断層帯、西山断層帯、宇美断層、警固断層帯、日向峠-小笠木峠断層帯等	M7.9-8.2程度 (西山断層帯全体)	7-13% (9%)	30-42% (35%)
九州中部	水縄断層帯、佐賀平野北縁断層帯、別府-万年山断層帯、雲仙断層群、布田川断層帯等	M7.8-8.2程度 (布田川断層帯布田川区間+日奈久断層帯全体)	18-27% (21%)	
九州南部	日奈久断層帯、緑川断層帯、人吉盆地南縁断層帯、出水断層帯、甕断層帯、市来断層帯等	M7.8-8.2程度 (日奈久断層帯全体+布田川断層帯布田川区間)	7-18% (8%)	